

小関三英 努力して蘭方医になり、渡辺華山推挙で岸和田藩医、幕府天文方訳員にまでなるも、<蛮社の獄>に連座して自殺。

おげきさんえい

寛政改革始・1787 = 出羽国鶴岡城下で、最上の豪族から浪人を経て酒井氏に仕えて庄内藩士となった家柄ながら、組外れという下級侍小関弥五兵衛の次男に生まれる。

松平定信引退1793 = 6歳 : 幼時から足痛という身障者だったが、頭はきわめて良く、向学心にも燃えて育ち、

プロト航来航・1796 = 9歳 :

青洲麻酔手術1805 = 18歳 :

藩校致道館修学後、

江戸に出、初め儒学を学ぶが、

蘭学こそ将来のもの、

黒住教・・・1814 = 27歳 :

・・・1815 = 28歳 :

金沢藩医吉田長淑から蘭方内科を学び、同門の高野長英と親交、また天文方訳員馬場佐十郎から蘭語を学び、帰省して開業。

水野忠成老中1818 = 31歳 :

私利私欲なく直情径行な性格で周囲となじまず、結婚もせず学問に専念、桂川家の援助など受けて生活、同じ馬場門下の仙台藩医学校外科教授佐々木中沢から、同医学校内科教授就任を要請され、

シーボルト来日・1823 = 36歳 : 仙台へ移り、同校充実に尽力したが、

異国船打払令1825 = 38歳 : 学頭渡部道可が急逝して、2年で挫折、帰郷する。

・・・1826 = 39歳 :

日本外史・・・1827 = 40歳 :

シーボルト事件・1828 = 41歳 :

母が死去。再び江戸に出、吉田塾の友人湊長安を頼ったが、築地の桂川甫賢邸に寄寓し蘭書訳述の日常を過ごす。この年、兄への手紙で、江戸に上ってきた長崎通詞吉雄権之介に蘭語の作文を見てもらい激賞されたと記し、シーボルト事件被害者への同情も示し、また。この間、一時キリシタン事件に友人が連座したため江戸へ逃げたこともあった。

鼠小僧磔・・・1832 = 45歳 : 渡辺華山と講り合い、その推挙を受け、和泉国岸和田藩医となり、

高島砲術・・・1834 = 47歳 :

滑稽+人情本 1835 = 48歳 :

兄の次男を養子に迎える。この頃できた、鈴木春山・長英・華山の主催する洋学研究の{尚歯会}に参加、幕府の天文方訳員に出役を命ぜられ、「厚生新編」の訳述に従うまでに至ったが、

大塩平八郎乱1837 = 50歳 :

適塾オープン・1838 = 51歳 :

蛮社の獄・・・1839 = 52歳 :

この年、モリソン号来航に幕府が打ち払いした際、華山が「慎機論」を、長英が「夢物語」を著して警告、江戸湾防備をめぐって、幕府役人内で守旧派鳥居耀蔵と開明派江川太郎左衛門が対立、鳥居が開明派弾圧に乗り出し、無人島開拓企画の密告を機に、華山らが逮捕され、司直の手が迫ると知り、朝赤坂溜池の岸和田藩邸内で自決した。優れた語学力・医学知識の持ち主で、「西医原病略」「泰西内科集成」は生前刊行されたが、「西洋内科大成」「泰西産科捷徑」「牛痘種法」その他多くの訳稿が残った。「那波列翁伝」は1857年刊行されたが、海外事情の訳述も少なくない。